

令和7年度学校評価項目の達成状況について

【自己評価の基準】 A:よく取り組まれており、成果が出ている。 C:取り組まれているが、更なる工夫(改善)が必要
 B:遅滞なく業務が進められており、問題ない。 D:取り組まれていない。

1 教育活動に関すること

項目	令和7年度目標値	実績(令和8年2月6日現在)	自己評価	今後の課題	評価結果	評価委員のコメント	
(1)地域農業の中核的担い手となる農業経営者及び農業を支える多様な人財の養成	①入校生の確保に向けた周知活動の充実強化	<ul style="list-style-type: none"> 次年度入校生の定員充足率70%以上(35人以上) オープンキャンパス(2回) 県内在校生出身高校(28校)訪問、高校進路ガイダンスと進路相談会への出席 ホームページやSNSによる情報発信(回数:月2回以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度入校生は24名の見込み 7月26日、11月12日に実施し、参加者数は79名(前年86名) 生徒は38人(同51人)で、うち18人(同38人)が受験 在校生出身校だけでなく、県内全高校(63校)と県外2校を訪問 進路ガイダンス・相談会は延べ41回参加 SNSによる情報発信162回(前年52回:Facebookのみ20回)で、今後も更新予定 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度入校生の定員充足率が48%と目標未達 オープンキャンパス参加者数がR6と比較して減少したが、高校訪問や進路ガイダンスによる断続的なPRを実施 学生、職員を含めた青森県営農大 大学校広報委員会を設置、6/19に公式Instagramを開設、142件投稿し、学校の状況を周知 	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスの実施時期及び回数を見直し 高校訪問及び進路ガイダンス出席への継続実施 Facebook・Instagram(SNS)による情報発信の強化 	自己評価判定:B	<p>自己評価の判定に異存はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 頑張って実施していると思う。A評価でもよいと思うが、来年への期待を込めてB評価とする。 入校生の充足率は未達だが、少子化が全国的な問題となっている中で、色々な取り組みを行っており、評価できる。 SNSは、技術だけでなく、映えることを期待する。 農家実習の実施時期について、農作業に合わせて実施してほしい。
	②新規就農者及び農協等農業関連業種従事者の確保	<ul style="list-style-type: none"> 就農と就職に分けた就農ビジネス講座及び農業関連企業説明会を実施。(学生の新規就農者と農業関連業種従事者の割合80%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 就職希望者を対象に会社説明会を17社設定、10社実施 就農、農業関連業種への就職は88%(28名)内訳:就農10名(うち雇用就農2名)、農業関連18名、他産業2名、公務員2名 2年生を対象としてビジネスマナーや履歴書の作成方法等に関する就農ビジネス講座2回、1年生向けにインターンシップに向けたビジネスマナー等に関する講座を1回実施 	<ul style="list-style-type: none"> 就農と農業関連業種への就職者割合が88%(28名)と目標80%以上(26名)を達成 さらにジョブカフェあおもりと連携し、2年生を対象とした内定者セミナー(1/26)、1年生を対象とした、自己分析を踏まえた就職活動セミナー(2/16)を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 親元就農、独立自営就農に向けた学生向けの指導支援 農業関連業種の会社説明会の積極的な開催 	自己評価判定:B	
	③魅力あるカリキュラムの充実	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の見直し検討及びR7年度教育計画の作成 <ul style="list-style-type: none"> ①環境保全型農業や輸出促進など時代や社会のニーズに対応した科目の設定 ②1学年での農家実習や雇用就農者向けの研修等の実践的学習の充実 先進技術等を取り入れた授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ①りんご高密度植わい化栽培に関する授業の実施 ②デジタル技術及びスマート農業に関する授業の実施 地域や関係機関と連携したプロジェクト学習の実施(各課程1つ以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ①環境保全型、輸出促進に関する授業は、既存科目(環境保全農業概論、海外農業と食料)の教育内容を変更して実施 加えて事業承継や労務管理等、社会ニーズに対応した科目についても、既存科目からの変更により実施 ②1学年の農家実習について、農業法人等へのインターンシップ要領を作成し実施、6名が参加した 1/29に報告会を実施、他学生へも内容を周知 りんご高密度植わい化栽培は、JA全農青森と連携してR6年度に実践農場を設置し、今年度100本追加定植。 りんご高密度植わい化栽培について、関係団体による講義を3回、実習を5回、プロジェクト1課題の実施 クボタKSAS(水稲)、高密度栽培(りんご)などのプロジェクトを地元の企業等と連携して実施 畑作園芸課程1課題、果樹課程1課題を実施 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに関する目標を達成 講義、カリキュラムについて、B以上の評価と回答した割合が、学生は前年と同様に90%以上、職員は79%(前年74%) 地域との連携・交流につながる課題解決プロジェクト学習は、職員の48%(前年45%)がB以上の回答 	<ul style="list-style-type: none"> 社会ニーズに対応した科目導入と既存科目のスクラップ&ビルド 1学年のインターンシップを円滑に実施できるよう関係者と調整 地域や関係機関と連携したプロジェクト学習の実施の充実 	自己評価判定:B	
	④海外研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> あおもり農業グローバルチャレンジ(提案型海外研修)への応募(採択時の海外研修実施) 	<ul style="list-style-type: none"> 企画提案書を2企画提出し、うち1企画が採択 海外研修の実施(10/12~18 イタリア りんご高密度植栽培:果樹2年3名、果樹1年1名、引率職員1名) 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の86%(前年81%)がB以上の評価 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も継続実施 	自己評価判定:B	
	⑤社会人向け研修による新規就農者の確保	<ul style="list-style-type: none"> 「あおもり農力向上シャトル研修」(シャトルコース、リカレントコース)を開講 「野菜1DAYセミナー」開催(20回) 	<ul style="list-style-type: none"> シャトルコース5名、リカレントコース4名(前年計9名) 野菜1DAYセミナー20回開催 刈払機、チェーンソー、大特、けん引、フォークリフト等の受講者延べ22名 	<ul style="list-style-type: none"> リカレントコース受講者数が定員(シャトル5名、リカレント20名)に対して大幅に少ない 	<ul style="list-style-type: none"> あおもり農業支援センター、農業普及振興室と連携した支援の強化 	自己評価判定:B	
(2)安全・安心な学校づくり	①緊急事態等に対する危機管理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練(1回)、夜間防災訓練(1回)及び救急救命講習(1回)の実施 BCP、実習における安全マニュアル及び危機管理マニュアルの運用及び随時見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練(5/16)、夜間防災訓練及び救急救命講習(6/19)を実施 地震における安全マニュアル及び危機管理マニュアルの職員への説明(4/2) BCP(事業継続計画)について現状を踏まえた見直しを実施 大規模地震を想定したマニュアルの見直し 12/8の青森県東方沖地震における学校での対応をまとめ、マニュアルに加味 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の73%(前年60%)がB以上の評価 近年の大地震を想定したマニュアル及びBCPの見直しの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に学生、当直が対応できるようにマニュアルを再度検討、見直し 	自己評価判定:C	
	②農作業事故の未然防止	<ul style="list-style-type: none"> 実習開始前の農作業安全の確認及び農業機械操作中のヘルメット着用率100%による学生及び職員の農作業における事故発生0件 	<ul style="list-style-type: none"> 各課程で実習時の作業安全に関するガイダンスを実施 実習前の安全確認、全員にヘルメットの着用を徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 学生による農作業事故1件 	<ul style="list-style-type: none"> 作業開始前の安全確認、ヘルメット着用の徹底の継続 	自己評価判定:C	
	③学生の安全運転の指導徹底	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室の実施(2回)やホームルームでの安全運転の呼びかけによる交通事故の未然防止 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室の実施(4/25,12/3) 夏季休業、冬期休業前の終業式において安全運転の注意喚起 	<ul style="list-style-type: none"> 学生による交通事故が6件(前年6件)発生 	<ul style="list-style-type: none"> 学生に対する安全運転、法令遵守の徹底 	自己評価判定:C	

項目	令和7年度目標値	実績(令和8年2月6日現在)	自己評価	今後の課題	評価結果	
(3) 職員の学生指導力の向上	① 学生指導に係る情報の共有	・職員間で学生指導に係る情報を共有するため、職員朝会(毎日)、課長会議(毎週)、指導職員会議(月1回)を実施	・計画どおり実施、指導職員会議等で学生指導状況の共有	・職員の66%(前年63%)がB以上の評価	・学生の指導情報の共有を継続	自己評価判定:B ・学生指導情報の共有 ・職員の指導力向上が必要
	② 学生指導に関する職員の資質・知識向上	・職員の資質と知識を向上させるため、学生指導に係る職場内研修会の実施 ・指導力スキルアップのための研修会への参加(延べ15人以上)	・学生指導に係る留意点に関する研修(4/2)、特性ある学生への支援に関する研修(3/17,19)に実施予定 ・各種研修会に23回(延べ34人)参加(前年17回、延べ20人)	・職員の52%(前年51%)がB以上の評価 ・学生の自己理解支援及び就職支援スキルについては3月に講習を実施予定	・指導職員のスキルアップに向けた研修の継続	

2 地域との連携に関すること

項目	令和7年度目標値	実績(令和8年2月6日現在)	自己評価	今後の課題	評価結果	評価委員のコメント
(1) 地元のイベント・スポーツ大会等への参加	・地元イベント等への参加、管内朝野球大会への参加	・七戸町長杯争奪朝野球大会に学生17名が参加、チームは準優勝、1名が優秀選手賞を受賞 ・七戸町ダブルスバドミントン大会、三沢市冬季バドミントン大会、青森県南総合バドミントン大会に学生1名が参加 ・しちのへ秋まつりの仮装大会は規定の人数(5名)が集められず不参加	・職員の53%(前年78%)がB以上の評価 ・学生の46%(前年45%)が部活動に参加	・学生に対する事前及び適時の情報提供と参加意識醸成	自己評価判定:B	自己評価の判定に異存はない。
(2) 農業高校との連携	・令和8年度入校生の円滑な学生指導のため、高校訪問し情報収集 ・農業高校への授業・研修への参加 ・農業高校OB職員による授業の実施	・学生指導に関する情報収集を書面により実施予定 ・農業概論の授業を実施(1名) ・七戸町が主催する柏葉塾の講師として教頭が参画、校外授業として当校を視察	・職員の64%(前年47%)がC以下の評価	・農業高校と共通する研修等の合同実施の検討 ・職員間での情報共有の強化	・学生の地元イベント、スポーツ大会への参加が増加 ・農業高校との連携については実施方法を再検討 ・農作業体験の受入団体数、人数の増加 ・直売所での取り組みは高評価、学生のスキルも向上	・ダイちゃんの店では学生が積極的に販売をしており、大変良かった。 ・学生が朝野球に参加してくれるお陰で大変盛り上がり、ありがたい。
(3) 農作業体験の受入れ	・児童・小学生・中学生、教員等対象に、食や農業への関心・理解を深めることを目的に、本校施設を活用した見学及び農作業体験学習の場を提供	・4団体、168人を受入(前年3団体、76人)	・職員の86%(前年78%)がB以上の評価	・夏季の農作業体験受入の期間、人数の検討 ・学生を主体とした受入への対応		
(4) 産直施設「七彩館」との連携	・直売所「大ちゃんの店」の開催、プロジェクト学習に係る消費者アンケート調査等の実施	・直売所「ダイちゃんの店」を開催(5回) ・プロジェクト研究で消費者アンケート等を実施(3回) ・6次産業化コースは、プロジェクト学習で開発した加工品を常設販売(2商品、10月)	・職員の86%(前年85%)がB以上の評価 ・学生が販売やアンケート調査等のスキルを習得	・七彩館や地元関係者が実施する地域イベントとの連携強化		

3 アクションプログラム進行管理に関すること

項目	令和7年度目標値	実績(令和8年2月6日現在)	自己評価	今後の課題	評価結果	評価委員のコメント
(1) 魅力あるカリキュラムの充実	上記1(1)②～④と重複のため省略				自己評価判定:B	自己評価の判定に異存はない。
(2) プロジェクト学習の充実・強化	地域との連携・交流に繋がる課題解決プロジェクトの検討	・りんご高密度植わい化栽培は、JA全農青森と連携してR6年度に実践農場を設置し、今年度100本追加定植。 ・りんご高密度植わい化栽培について、関係団体による講義を3回、実習を5回、プロジェクト1課題の実施 ・クボタKSAS(水稲)、高密度栽培(りんご)などのプロジェクトを地元の企業等と連携して実施	・地域との連携・交流につながる課題解決プロジェクト学習は、職員の48%(前年45%)がB以上の回答	・課題解決プロジェクトの実施方法と教育計画への反映方法の検討 ・職員間での情報共有	・地域との連携・交流につながる課題解決プロジェクトと教育計画の反映方法の再検討 ・防犯設備の適正な配置を検討 ・学生と農業青年との交流促進 ・SNSの積極配信 ・農業高校との交流は未実施 ・タブレットの適正な整備、職員への指導は不十分 ・機械施設の計画的な導入	・職員が2～3年で異動するが、在職期間を長くしてほしい。 ・プロジェクト活動で、営農大学校発の技術や品種育成を検討してほしい。
(3) 指導職員の在職期間の確保	・一定の在職期間の確保を農林水産部人事担当と協議	職員の希望も配慮しながら職員の在職について協議を実施	・農林水産部人事担当に対して要望	・職員体制と農場管理のあり方について、民間の活用連携を含め検討 ・農場管理態勢の確保のため、指導職員の農業機械操作資格取得を推進		
(4) 農場管理者の確保	・農場管理に必要な職員数の確保のため農林水産政策課人事担当と協議	必要職員数の確保を農林水産政策課人事担当を通じて要望				<全体を通じて> ・国の施策であるみどりの食糧システム戦略のように20年後に目を向け、先取りした農業を考え、農業の魅力、夢をもってできること、儲かることも伝えることができれば、学生が農業に興味を持つことができるので、引き続き取り組んでほしい。
(5) BCP(事業継続計画)や危機管理マニュアルの適時見直し	上記1(2)①と重複のため省略					
(6) 家畜伝染病対策の強化	・防疫エリアを出入りするトラック等について、動噴による消毒を徹底	・家畜伝染病対策の消毒方法を家畜保健衛生所と検討し、動噴による消毒を継続	・消毒を徹底して実施	・次年度も継続実施		
(7) 防犯カメラの整備	・R8実施に向けて防犯カメラの必要な性能及び設置場所について検討	・業者とともに防犯カメラの性能・設置場所について検討(設置場所:通学生玄関、各寮玄関、正面玄関、農具庫等、性能:顔、指紋、スマホ、カード認証等)	・次年度設置予定	・R8に仕様及び個所数等を決定し設置。		
(8) 農業青年との交流	・青森県4Hクラブ連絡協議会が主催する各種大会への参加 ・各地域県民局や市町村などが開催する新規就農者対象のセミナー等への参加	・東北農業青年交流会(8/27～28)、県青年農業者会義(2/12～13)に就農予定の学生延べ13名が参加 ・東北農業青年交流会では、当校が視察先となり魅力や取り組みを伝えた	・就農予定の学生と県内外の4Hクラブ員の交流を実施 ・県青年農業者会議で海外研修報告を実施	・学生の積極的な参加への誘導		

項目	令和7年度目標値	実績(令和8年2月6日現在)	自己評価	今後の課題
(9)学習活動のSNS等による情報発信	・学生も参画した情報発信体制の構築	・学生による情報発信を行ってため、学生自治会に委員会設置	・保護者の78%(前年74%)がSNSを見ていると回答 ・さらにわかりやすいと回答したのは61%(前年43%)	・これまでは学生自治会役員が広報委員を兼務していたが、改変して委員会を設置、学生目線の投稿を充実
(10)農業高校との交流促進	・1、2年生対象の学校説明会の開催	・活用予定の国庫補助事業の予算配分がなかったため、今年度は中止	・農業高校との交流促進は学生確保の観点から不可欠であると考えられるので、開催方法を検討	・国庫事業によらない実施方法を検討 ・引き続き国庫補助事業の予算確保
(11)情報通信環境の整備	・タブレットPCの配布 ・活用講習会の開催	・利用規約および貸与規程を整備し、8月中旬にタブレットPCを配布 ・学生に対して使い方を指導したほか、職員に対して活用講習会を開催	・通信環境及び学生使用のタブレットPC(85台)、職員用(30台)の整備完了 ・タブレットPCによる学習指導は職員の46%が更なる工夫が必要であると回答	・整備された通信環境、タブレットPCを活用した講義、実習の実施 ・職員に対するタブレットPC活用講習会の実施
(12)整備・廃止する施設、機械とその優先順位付け	営農大学校長寿命化整備計画の推進	・体育館の改修 ・現場教育ワークスペース基本計画、堆肥舎改修の実施設計	・1月に体育館改修工事が終了 ・現場教育ワークスペースの基本計画、堆肥舎の改修実施設計を作成し次年度改修	・計画どおり実施 ・計画に基づいて改修、更新を実施
	主要備品更新計画に基づく機械・設備の更新	自動操舵システムの導入及びブームスプレーヤー等の更新を予定	・計画どおり、ブームスプレーヤー更新、ハイクリブームを導入	
(13)スマート農業機械のリース計画及び無人ヘリコプター廃止の検討	・補助事業活用による自動操舵システムの導入 ・農場で使用している無人ヘリコプター更新中止及び処分	・補助事業を活用し、自動操舵システム2台、牛わか++の導入 ・無人ヘリコプター更新中止及び処分を実施	・計画通り実施	・機械、設備導入時にリース・購入の検討、補助事業の活用検討
(14)民間企業や試験研究機関との連携強化	・農機具メーカーによるスマート農機の実演など、実物を用いた講習・実習の実施 ・民間企業や試験研究機関等との共同研究の実施	・みちのくクボタと連携して、直進アシスト付き田植機の試乗実演会を実施、KSASによる可変施肥マップ作成等を実施 ・ヤンマーアグリジャパンと連携して、ドローンの操縦実演実施 ・りんご高密度植わい化栽培は、JA全農あおもりと連携して実践農場を設置、今年度100本追加定植 ・雪印種苗と連携して草地更新の実演研修の実施	・関係機関と連携した実習等の実施 ・これまで座学のみであったKSASの活用について、今年からデモ機を活用した実演を追加、より実践的な内容で実施	・次年度も継続実施